

生命の

大陸



AGORA Special

vol.353

「オーストラリア」



その昔、超大陸ゴンドワナの一部であったとされるオーストラリア。

その名残を見ることができるこの場所は、

孤立した大陸ならではの固有動植物のサンクチュアリー（聖域）を造り上げてきた。

悠久の時を越えて、脈々と紡いできた命の物語を探しにオーストラリアへ――。

平野美紀＝文
Text by Miki Hirano

平野正洋＝撮影
Photo by Masahiro Hirano



右：ワタルカ国立公園内にあるキングスキャニオンは、約4億4,000万年前に形成された砂岩の渓谷。
左：日の出とともにケープヒルズバラの海岸に現れる野生のスナイロワラビー。





標高1,563mからゴンドワナ多雨林の一角である太古の森を見渡せるニューイングランド国立公園の展望台。

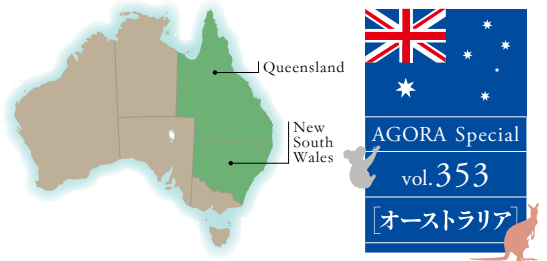


地球の歴史を垣間見る 太古の森を歩く

Gondwana Rainforests



森の屋根と呼ばれるキャノピーから差し込む光が緑を美しく照らし出す。



ぐ

つと冷え込んだ早春の夜明け前。暗闇の原生林をひたすら歩き、標高一五六三mにある展望台を目指す。気温五℃。かじかむ手を擦り合わせながら、太陽が昇ってくるのをじっと待っていると、少しずつ薄明の光が辺りを照らし始め、鳥のさえずりが聞こえてきた。それからほどなくして、雲間から一筋の光が差し込み、朝靄に包まれた谷間に壮大な森が浮かび上がった。朝日に照らされて目の前に広がったのは、かつてゴンドワナ大陸に存在していた森林の名残でもある太古の森だ。この森は、亜熱帯から冷温帯まで多様な植物が生い茂る貴重な多雨林であり、地球上で

地

最も広大な亜熱帯雨林でもある。キャノピー(林冠)と呼ばれるほど高く成長した常緑樹が、まるで屋根のように生い茂って太陽光が地表に届くのを遮り、森の内部をシダ類、着生植物が覆い尽くす。太古の時代、ゴンドワナ大陸はこうした豊かな森で覆われていたとされ、ゴンドワナから分裂したばかりのオーストラリアもそうであったと考えられている。その後、大陸の乾燥化が進み森は縮小したものの、現在でも大陸東部にゴンドワナ時代の原形をとどめた状態で残り続けている。

地球上に残された箱舟のようなこの森は、一九八六年、地球の進化の

歴史が垣間見られる貴重な場所として、ユネスコの世界自然遺産に登録された。一九九四年に世界遺産対象エリアが追加され、二〇〇七年には「オーストラリアのゴンドワナ多雨林」と名称が改められた。現在は、クイーンズランド州南東部からニュー・サウスウェールズ州北東部にかけて、約三七万haのエリアが対象となっている。

ゴンドワナ多雨林地区は、広大なオーストラリアの面積のうちほんのわずかにすぎないが、四〇以上の国立公園や州立公園、保護区を内包し、現在のオーストラリアで見られる植物相の約半数が自生。また、哺乳類や鳥類の三分の一にあたる種がこの森にすみ、希少種や絶滅危惧種となっている二〇〇種以上の動植物種の生息地として、貴重な生態系を育み続けている。

森に足を踏み入れれば、聞こえてくるのは鳥や虫たちの声、木々の葉が風で揺れる音。目の前には溢れんばかりの緑。そして、頭上からは光のカーテンのように柔らかな木漏れ日が降り注ぐ。

「便利なものや華々しい仕掛けは一つもないけれど、ここでは力強い生命の息吹が感じられるんだ」と言って、国立公園のレンジャーはほほ笑んだ。ゴンドワナの森では、今も豊かな太古の自然に癒やされる至福の時間が待っている。



カンガルーでありながら生涯のほとんどを樹上で暮らす。州の準絶滅危惧種に指定。

カオグロキノボリ
カンガルー
Lumholtz's Tree-Kangaroo



カモノハシ
Platypus

単孔類。くちばしと水かきがついた手足、雄のかかとには毒針があるなど、生態は謎だらけ。



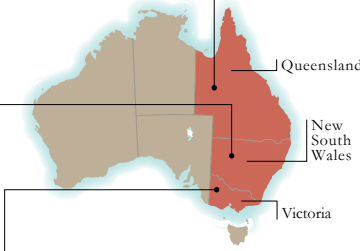
ヒクイドリ
Southern Cassowary

最大2m、体重70kgを超える世界で3番目に大きな飛べない鳥。破壊的なキック力をもつ。



コウロコフウチョウ
Victoria's Riflebird

左右交互に羽をかざして喉羽をチラ見せるユニークな求愛ダンスで知られる極楽鳥の仲間。



生物の分岐と進化を紐解く鍵となる動物たちが、今も当たり前のように暮らすオーストラリアは、固有種の数でも群を抜く。生息してきたと考えられている。

単孔類は、卵を産む原始的な哺乳類だ。進化の過程で約一億五〇〇〇万年前に分岐したとされるが、今となっては地球上で「カモノハシ」と「ハリモグラ」だけになった。このどちらかが現存する唯一の大陸がオーストラリアだ。有袋類もまた、原始的な哺乳類といえる。現在の哺乳類の主流を占める有胎盤類と一億年以上前に分岐したとされ、外敵がほばいないこの大陸で独自に環境に適応しながら繁栄してきたと考えられている。

ゴンドワナの名残をとどめるオーストラリアの雄大な自然は、そこに暮らす生き物たちを守り、後世へと残すための生命のゆりかごでもある。地球の歴史上、早くから孤立した大陸で、初期の哺乳類とされる単孔類が生き残り、ほかの大陸ではほとんど絶滅してしまった有袋類の楽園となった。



ミカヅキインコ
Superb Parrot

主に州内陸部のみに生息するインコ。野生下では5,000ペア程度と個体数が減少。



キバタン
Sulphur-Crested Cockatoo

黄色い冠羽を持つ大型のオウム。日本でもペットとして人気。街なかの公園や住宅街にも出没。



ワライカワセミ
Laughing Kookaburra

笑い袋のようなユニークな鳴き声の大型のカワセミ。シドニー五輪のマスコットの一つ。



ヒメウォンバット
Common Wombat

木には登らないがコアラに最も近い種。腰からお尻の皮膚が骨のように硬く、ふんが四角い。



フクロモモンガ
Sugar Glider

20cm程度と小さい体で木から木へ約50m飛行して移動する。花の蜜や花粉が好物。

る生き物のうち、哺乳類と爬虫類は八〇%以上、鳥類は四〇%以上、両生類、昆虫類、魚類は約九〇%が固有種だ。

そんな独自の生き物たちと未来を切り開いていく決意を込め、オーストラリアでは、固有の動植物を国のシンボルにしている。国章に描かれているのは、おなじみのカンガルーと世界で二番目に大きな

な飛べない鳥エミュー。この二種はどちらも足の構造上、簡単に後退できないため、「前進する国」のイメージにぴったりだと採用されたという。

また、コインや紙幣にも固有種が描かれている。五セントと二〇セントのコインには、それぞれ単孔類の「ハリモグラ」と「カモノハシ」。一〇セントコインには、モノマネ鳥として知られる「コトドリ」。

一ドルコインには「カンガルー」が



ハリモグラ
Echidna

単孔類。危険を感じると背面のトゲで身を守る。生息域が広く、主食はアリやシロアリ。



オオカンガルー
Eastern Grey Kangaroo

大陸東部に生息するカンガルー。平坦な草原ならどこでもよく見られ、家族や群れで行動。



アカクサインコ
Crimson Rosella

大陸東部の森林地帯に生息するインコ。フラビーと一緒に草をついばんでいることも。



ゴシキセイガイインコ
Rainbow Lorikeet

大陸東部では頻繁に見かける中型インコ。街なかの公園にも姿を現し、人懐っこい。

※野生で見られる可能性が高い固有種の動物と鳥の一部を主なエリア別で紹介。一部の種を除き、州をまたいで生息。

刻まれている。そして、新紙幣には、国を代表する著名人の肖像とともに、固有の植物と鳥がデザインされているのだ。

有の鳥たちは、世界中のバードウォッチャーにとって憧れの的だ。カラフルな羽色のインコやオウム類をはじめ、変わった鳴き声や奇妙な求愛行動をする鳥など、個性的な鳥たちが大自然のなかを自由に飛び回る。驚くことに、約六六〇〇万年前の大量絶滅を乗り越えた『恐竜に最も近い生物』の一種とされる「ヒクイドリ」のような珍鳥にも出合える。

オーストラリアでは、こうした固有種の保護に取り組む民間ボランティアの奮闘を国や州が支え、官民一体となって保護・保全活動を行っている。自治体が主催する固有の動植物を知るためのウォーキングなど、家族で参加できる学習イベントも盛んだ。

一方で人口増加に伴い、野生の生き物たちのすみかが奪われていく現実もある。長年、野生生物と人間活動の関わりについて提唱を続ける市民科学者のひとり、ジャッキー・マローさんの言葉が胸に響く。「自然を守り、野生動物と共存していくためには、私たち人間が自然のなかで生きる生き物たちに思いを馳せる必要があるのです」

独自の進化を遂げた
生き物たちに出会う

Wild Animals & Birds

クオッカ

Quokka

世界最小のフラビーの仲間。西オーストラリア州ロットネスト島に多く生息。ほほ笑むような表情で「世界一幸せな動物」と話題に。